http://www.minamih.net/

１３・　５・１２(日)
南ＮＥＷＳ　ＮＯ１２

## 以下の文章は指導者会議の資料です。

コーチのみなさんはいつも勉強しています。定期的に行われる指導者会議は日頃の活動を振り返り、成果と課題について話し合い，そのための指導について学び合い､その後の指導について方向を確認しています。共通理解をした上で指導に当たっています。

昨夜も，カップ戦・全日本予選１２Ｂ予選を振り返るとともに，今年度の予定，活動の方針，共通理解することについて話し合い，確認し合いました。

子ども達のためにどのコーチも燃えています。

ｂｙ南のアンパンマン

## 「希望でみちびく科学」

**… 障害児教育　ホントのねうち…**　三木裕和著　クリエイツかもがわ

### １発達的に子どもを理解する　ｐ１９～ｐ２０

### （２）失敗，できなさ，愚かさがどう扱われるか

…一升餅を背負わせて歩かせるという風習がある。…

一歳児だから……必ずひっくり返る。…あえなく倒れる。そして，裏返しにされた亀の子のようにもがくのだ。

初誕生の祝いの席に集った親戚の者はそれを眺めながら，はやし立て、励まし、大きな声あをあげて楽しむ。幼子の転倒を，手を叩きながら大笑いする。私が不思議に思うのは，幼子の「失敗経験」が，かくもなぜ人々を和まし励ますのかという点だ。

「焦ることはない，子どもの成長はゆっくりでいいのだ」という教えなのだろうか。この習俗の謂われについて私は何も知らないが，手足がむなしく虚空をかくその姿は，その場に居合わせた全ての人々を喜ばせるという確かな事実はある。若いお父さん，お母さんはもちろん人生を長く生きてきたお年寄りも，思春期まっただ中のふてくされた若者をも温かく微笑ませる偉大な力があるのだ。

この笑いには，人の失敗を見下すような意地悪さは微塵もない。むしろ「愛おしさ」の滲む笑いだ。一歳児の姿かたち，かわいらしさだけを愛でているものでもない。人間誰しもがもつ希望，幸福に生きたいという願いの原初的姿を見ている。

幸福への希求，そして，それが叶わない時の悲しさ。でも，再び，立ち上がろうとする幼児の姿に希望の再生を見ている。

失敗，できなさ，愚かさは人間にとって常に侮蔑の対象であったわけではない。むしろ，私たちはそこに共感的な感情をもち。誰かの失敗は私たちを励ます力をもっている。「そうそう，私も同じだ。一緒にがんばろう」という共感。

成功の側には，確かに光り輝くものがある。しかし，その反対側にももっと深く輝く価値がある。だれしもそれを感じているのではないだろうか。



### ３「できなさ」の中に輝きを見つける　ｐ４７～ｐ４８

### （１）「できなさ」のなかにこそ，人間の輝きが潜んでいる

ＮＨＫスペシャル（ＮＨＫスペシャル、２０１２年１月２２日放送,『ヒューマン，なぜ人間になれたのか①…旅はアフリカから始まった』）で知ったことだが，私たち現生人類の祖先は，他の類人猿に比べて，決して屈強な生きものだったわけではないらしい。

アフリカ大陸からユーラシア大陸へと同時期に移動した他の類人猿，例えば，ネアンデルタール人は私たちよりもずいぶん体格が優れ，力もうんと強かった。「彼らがオリンピックに出場すれば，次々と記録を塗り替えるだろう」と アナウンサーが語り，その様子を想像して私は笑ってしまったのだけれど，しかし，私たち人類がなぜ生き延び，より屈強な彼らはなぜ滅んだのか。

それは，私たちの祖先が「助けあう」という特徴を備えた種だったからだ。わずかな食べ物を，競い合って奪うのではなく，危機的な状況であればあるほど，分けあい，助けあった。それが「生き延びる」上での最大の武器だった。

人類の歴史を振り返ると，幾度となく繰り返されるむごい戦争や虐殺を知り，人間の本性について深い悲観にとらわれることがある。個体を守るためには，他の個体が犠牲になってもかまわない。そういう人間の姿から，私たちは目をそらすことはできないだろう。

しかし，もう一方で，逆の事実も知っている。人の悲しみや辛さをわがことのように感じる心性が，私たちの中に存在するという真実にも，勇気をもって目を向けたいと思う。できなさや失敗，愚かさの中にあっても，幸福に向けて再び踏み出そうとする人に，私たちは深く励まされる事実がある。それは，助けあいによってしか生き延びられなかった，遠い祖先につながる私たちの本性だ。人間を能力によって図ろうとする思想よりはるか以前に誕生した，より深い本性である。

「できなさの中にあっても幸福に生きたい」と願う存在が人間であるとするなら，障害のある人は，それを最も純粋な形で生きている人たちだ。この人たちの中に，人間の輝きを見いだすことは，決して困難なことではない。